

# 韓国

# 米向け鉛輸出に失速感

## ピークの1割 原料輸入は拡大

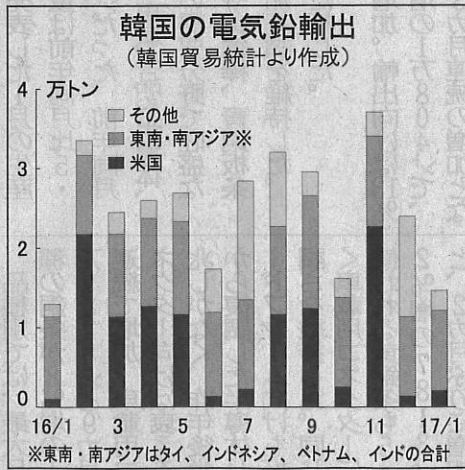
韓国の米国向け鉛地金輸出に失速感が出てきた。昨年最大の輸出相手国ながらも、直近の12-1月はピーク時の10分の1以下に大きく減少。東南・南アジアを除く輸出量が不安定になっている。一方でリサイクル原料の輸入は拡大しているため、地金輸出の低調がこのまま続くと、アジア圏で供給余剰懸念が出てくる可能性もありそうだ。

## アジア圏で余剰懸念も

韓国は2016年、電気鉛に相当する精製鉛を年間で約30万8000ト輸出した。前年と比べると5割増加しており、13年比では2・3倍に急増している。16年輸出のうち36%の約11万2000トが米国向け。13年はわずかに約6000トだったが、3年で20倍近くに増えた。

近年の韓国の鉛地金輸出増加分は、この米国向けが大部分を占めており、これがリサイクル原料の廃バッテリー

(使用済み鉛蓄電池)の旺盛な買い気の源にあった。対米輸出は大口のスポット契約で月々の数量が変動したが、昨年は1万ト超の月が多く、高水準で平準化しつつあった。しかしここに来て、その



輸出にも陰りが見られ、1月の総輸出量は1万4610トも1年ぶりの少なさだった。昨年はアジア向けの輸出が復調した。イン

ドは前年比41%増、ベトナムは48%増、インドネシアは40%増とそれぞれ大きく増長。しかし、2%増にとどまったタイ向けは秋から

ブレーキがかかっており、今年1月は前年同月比76%減の1118ト。タイ向けの不調も総輸出量を抑制している。スポット輸出先は米国のほかにスペインがあり、昨年は7月、8月、12月にそれぞれ7000-8000トの輸出を計上しているが、あくまで不定期だ。

一方の廃バッテリー輸入は11-1月に3カ月連続で月4万トを上回り、前年同期より2割以上多くなっている。しかもその最大輸入先は米国で、1月は1万3550トと、1カ国の単月の数量としては過去最多だった。米国からのこの「逆流」現象の背景は不明だが、バッテリー製品輸出を含めた鉛関連貿易の米韓関係に、変化の兆しが出ている。

このままいくと韓国の鉛地金の生産と輸出にギャップが生じ、ア

シアで供給余剰感が表面化するシナリオも考えられる。韓国の一次製錬・二次精錬筋は14年ごろ、日本の商社や

バッテリーメーカーなどに對して売りオフア一を出し、安値攻勢を強めた時期があった。現在は月200-40

0ト台の対日輸出だが、今後の余剰玉の売り先としてプレッシャーを受ける可能性は否定できない。